

都市再生整備計画

みふね
御船地区

くまもと みふねまち
熊本県 御船町

平成22年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	熊本県	市町村名	御船町	地区名	御船地区	面積	204 ha				
計画期間	平成	22 年度	～	平成	26 年度	交付期間	平成	22 年度	～	平成	26 年度

目標 大目標:御船町の新たな顔となる「人集い夢かなう文化交流空間」の形成

- 目標1:【地域の魅力再生】…地域資源(恐竜、酒蔵、音楽、自然環境等)を生かした交流拠点の形成による魅力の再生を図る。
- 目標2:【賑わい再生】…新たな交流拠点における住民と来街者の活動や交流による地区の賑わい再生を図る。
- 目標3:【住環境の向上】…子育て支援や安全な交通ネットワークの形成、身近な公園整備による住環境の向上を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- かつての御船町は、江戸期に入り、加藤清正の治水事業により、御船川が緑川と合流、海に通じる水運を整備したことを契機に、町場、市場が栄えるようになったのがはじまりである。この頃、山地と平地の交易地として栄えた地が御船川左岸であり、日向街道が整備され、数々の石橋も築かれる等、陸上交通の要所にもなっていた。西南の役の際には、緊急避難的に熊本県庁も設けられ、御船川左岸は政治、経済、文化の中心地であった。
- その後、戦前から戦後を通じて、御船川左岸が本町の商業の中心であったが、昭和39年に熊延(ゆうえん)鉄道が廃線され、交通手段が鉄道から車へ転換し、九州で初めての共同店舗として話題になった「メイン」を始めとする商業施設が、現在の国道445号沿いに立地するようになり、商業の中心が左岸から右岸に移っていき、現在に至っている。
- こうした市街地の変遷を受けて、御船川右岸は、役場、恐竜博物館、カルチャーセンター、スポーツセンター、城山公園、小・中学校、高校等の公共公益施設や、沿道型商業施設、商店街等が集積立地し、本町の中心地を形成している。また、近年では、シンボルロード、国道443号バイパス、国道445号バイパスの整備にともない、沿道における都市的土地利用が進展しており、さらなる集積・発展が見込まれる地区である。なお、恐竜博物館は、全国唯一の町立恐竜博物館であり、年間約4万人の利用者がある本町の観光拠点のひとつである。
- 地区周辺部においては、地区東側には辺田見山の山並みが連なり、西側には優良農地が広がる等、豊かな自然環境にも恵まれた地区である。
- 本町では、総合計画をはじめ各種計画や予算案の策定段階から公表し、また、「まちづくり大会」等を開催し、町民の意見を各種計画や予算案に反映させることにより、町民と一体となった町づくりを進めており、その一環として、本地区における各種計画についても、説明会や懇談会等を開催し、進めている状況にある。また、本地区の賑わい再生に向けた取り組みとして、御船川河川敷におけるイベントやイルミネーション等を開催している。

課題

- 恐竜博物館については、来館者数の停滞や施設の老朽化等から、そのあり方が問われており、平成20年度よりプロジェクトチームを発足し、今後のあり方について、検討が進められている。
- また、かつての商業の中心であった御船川左岸は、かつての白壁の重厚な町屋敷が連続する御船らしい街並み景観を部分的に残しつつも、近年では、ライフスタイルの変化やモータリゼーションの進展により、街並みの賑やかさが年々薄れつつあるため、まちの魅力の再発掘による賑わいの再生を図る必要がある。
- こうした中で、国道443号及び445号バイパスの整備により、かつての平地と山地の中継地として栄えてきた本町も、単なる通過都市になる恐れがあるため、地域の特産品や恐竜に代表される地域資源、歴史ある古い街なみ、平成音楽大学・御船高校の高い技術(文化芸術、ロボコン等)等を活用し、熊本市内をはじめ、県内外の来訪者を惹き付ける魅力づくりに取り組む必要がある。
- 平成21年度の取り組みとして、「まち育て塾」による活動が展開され、町としても「まちづくり大会」等を開催し、町民の意見を各種計画や予算案に反映させる仕組みを構築・実践しているが、さらなる住民参加や住民との協働によるまちづくりの推進を目指して、継続的なまちづくり活動をサポートする仕組みを構築する必要がある。
- 現在、本町においては、子どもから高齢者までが交流できる場所がなく、町民や子育て支援関係者から世代間交流や情報交換ができる場や機会の設置を求める声があがっていることから、庁内検討組織を設置し、対応策の検討を始めている。
- 地区内においては、日常生活に密着した区画道路から、都市間交通を処理する幹線道路までの段階的な交通体系が形成されていない状況にあり、また、身近に利用できる公園も配置されていない。そこで、安全な交通ネットワークの確保や身近な公園整備等といった居住環境の整備・改善を図る必要がある。

将来ビジョン(中長期)

- 御船町総合計画(平成14年3月改訂)では、国道バイパス建設等を背景に、「人集い夢かなう交差点みふねまち」を将来像に掲げ、まちづくりに取り組むものとしている。なお、重点施策として、物産館(道の駅)整備事業等が掲げられている。
- 御船町都市計画マスタープラン(平成15年3月策定)では、将来都市像を「自然と文化が交流する生活環境都市・御船」とし、御船地区をタウンセンターゾーンと位置づけている。本地区に関連する御船校区右岸地域については、「自然環境に育まれる市街地が形成されるまち」を将来像に掲げ、バイパス建設と併せた魅力ある市街地づくりや中心市街地にふさわしいタウンセンターづくりを位置づけている。
- 平成18年6月には「御船町総合計画第10期基本計画(第4期基本構想後期計画)」が策定され、「御船地区整備計画の推進」が、都市計画事業の振興に向けた施策の体系の中に位置づけられている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
施設利用者数	人/年	恐竜博物館の利用者数	恐竜博物館の再整備により、本地区の魅力向上につながることから、本指標を扱うものとし、従前における利用状況の約20%増加を目指す。	31454	H20	40,000	H26
コミュニティ活動参加者数	人/年	各種まちづくり活動(WS、会合等)へのべ参加者数	各種施設整備により、地域住民はもとより、各種団体等によるまちづくり活動の活性化が見込めることから、本指標を扱うものとし、従前の活動状況の約200%増加を目指す。	216	H21	400	H26
子育て支援センター利用者数	人/年	(仮称)子育てふれあい館の利用者数	(仮称)子育てふれあい館整備等の推進により、住環境に対する満足度向上が見込まれることから、本指標を扱うものとし、既存の施設利用状況の20%増加を目指す。	3,401	H20	4,100	H26

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【整備方針①】地域資源(恐竜、酒蔵、音楽、自然環境等)を生かした交流拠点の形成による魅力の再生を図る。 (1)本町の拠点施設である恐竜博物館の再整備に向けて、庁内プロジェクトチームと町民によるワークショップを開催し、施設内容や設置場所、施設イメージ等を検討する。その結果を受けて、恐竜博物館を新設する。</p> <p>(2)恐竜博物館の再整備に合わせ、旧御船幼稚園建物の利活用による(仮)御船町観光交流センター等の整備について、庁内プロジェクトチームと町民によるワークショップを開催し、恐竜博物館との連携や機能分担、施設内容、施設イメージ等を検討する。その結果を受けて、施設整備に着手する。</p> <p>(3)御船川左岸側の商店街に立地する旧酒蔵の利活用に向けた町民勉強会(ワークショップ)の開催し、導入機能や配置イメージ、運営方法等について検討する。その結果を受けて、建物を買収・改修し、街なかギャラリーとしての活用や各種イベントの開催を図る。</p> <p>(4)シンボルロード沿道におけるポケットパークやモニュメント整備にあたり、ワークショップを開催し、御船らしい景観形成に着手する。</p>	<p>恐竜博物館整備事業【提案:地域創造支援事業/町】 恐竜博物館整備に向けたワークショップ【提案:まちづくり活動支援事業/町】</p> <p>(仮)御船町観光交流センター整備事業(旧御船幼稚園建物再生)【基幹:既存建造物活用事業(観光交流センター)/町】 (仮)御船町観光交流センター整備に向けたワークショップ【提案:まちづくり活動支援事業/町】</p> <p>(仮)街なかギャラリー整備事業【基幹:既存建造物活用事業(地域交流センター)/町】 (仮)街なかギャラリー整備に向けたワークショップ【提案:まちづくり活動支援事業/町】</p> <p>ポケットパーク整備事業(シンボルロード線沿道)【基幹:地域生活基盤施設/町】 モニュメント整備事業(シンボルロード線沿道)【基幹:高質空間形成施設/町】</p>
<p>【整備方針②】新たな交流拠点における住民と来街者の活動や交流により、地区の賑わい再生を図る。 (1)熊本市内や九州自動車道御船インターチェンジ等から、国道443号及び445号バイパスを経由し訪れる来訪者を受け止め、本町の歴史文化、生活、観光資源、特産品等をPRする拠点として、また、来街者と地元住民との交流機会を創出するイベント開催の場として、ふれあい広場を整備する。</p>	<p>ふれあい広場整備事業【基幹:地域生活基盤施設/町】 ふれあい広場整備に向けたワークショップ【提案:まちづくり活動支援事業/町】</p>
<p>【整備方針③】子育て支援や安全な交通ネットワークの形成、身近な公園整備による住環境の向上を図る。 (1)旧御船幼稚園を活用し、地域の子育て支援の拠点となる児童館的機能を含め、いろいろな世代の方々が集い交流し、地域の子どもを地域住民で見守り育て支える多目的な交流施設を整備する。</p> <p>(2)主に役場周辺における歩行者の安全性確保を図るため、現況幅員の拡幅や見通しの改善等を実施する。</p> <p>※ふれあい広場整備については、【整備方針②】で記載。</p>	<p>(仮)子育てふれあい館整備事業(旧御船幼稚園建物再生)【基幹:既存建造物活用事業(子育て支援センター)/町】</p> <p>城山小学校線整備事業【基幹:高質空間形成施設/町】 迎町高校線整備事業【基幹:高質空間形成施設/町】 辺田見役場線整備事業【基幹:高質空間形成施設/町】 埋蔵文化財調査(迎町高校線)【提案:地域創造支援事業/町】</p>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各施設整備にあたっての住民意向の反映について(住民参画) <ul style="list-style-type: none"> ・旧酒蔵や旧御船幼稚園建物の改修にあたっては、改修後の施設の維持管理面についても視野にいれて、検討を進めるものとする。また、その他各種施設の計画・設計についても、整備後の利用しやすさや、施設への愛着を高めるために、あらゆる町民に参画していただけるような仕掛けを行うものとする。また、恐竜博物館の再整備にあたっては、あらゆる町民に参画していただけるような仕掛けを行うものとする。 ○交付期間中の計画の管理について(モニタリング) <ul style="list-style-type: none"> ・各種事業を円滑に進めるとともに、目標の実現に向けて確実な効果をあげるために、庁内に横断的な組織を設置し、計画の進行管理、事業間の調整を行う。また、各種の事業に対する町民の理解と協力を得るためにも、各種事業の進捗状況を適宜、町民に情報公開する。 ○事業終了後の継続的なまちづくり活動について <ul style="list-style-type: none"> ・事業終了後についても、地区の持続可能な発展を継続するため、各種団体との連携を図るとともに、地域住民を主体とした取り組みに対する支援を行い、町民と行政との協働による地域特性を生かした特色あるまちづくり活動を継続的に推進する。 	

